

## 豊田・徳山・明石高専キャリア教育における実践的な比較検討

中川 肇\* 梶本 浩美\*\*

### Comparative Studies of Career Support Education at Three National Colleges of Technology

Hajime NAKAGAWA, Hiromi AKIMOTO

#### ABSTRACT

This paper is a comparative study of three National Colleges of Technology. In this article, we analyze interviews with coordinators at two National Colleges of Technology outside of our own. This article also discusses the results and improvement of career education that have been carried out by the department of Architecture and General Studies at Akashi National College of Technology. This career support education, aimed at developing the skills necessary to foster social dignity among college students, mainly focuses on the following activities: an architecture-specific subject seminar, career planning, entry form correction, and a career support seminar.

**KEY WORDS:** social dignity, career support education, the interviews with coordinators, architecture-specific subject seminar, career planning

#### 1. はじめに

全国の国立 51 高専、公立 3 高専、私立 3 高専の計 57 高専において、高専卒業後の進路は、各高専によって進学、就職状況はかなり異なる傾向を示している。最近では、大学と同様にキャリア支援室を設置する高専が徐々に増え、キャリア支援室を中心に進路支援、資格支援等が積極的になされている。

筆者らは、文献 1)、2) において、明石高専における人間力育成を目指したキャリア教育の現状及び改善策について報告している。平成 24 年 9 月に豊田高専 (愛知県豊田市)、徳山高専 (山口県徳山市) キャリア支援室を訪問し、キャリア支援室発足までの経緯、キャリア支援教育の実態調査を行い、今後のキャリア教育の在り方について情報交換を行った。

本論では、豊田・徳山・明石高専キャリア教育の各特徴について報告し、実践的な意味での比較検討を行う。また、本校におけるキャリア教育の改善策として、建築学科 3 年生以下で実施したキャリア教育の実践例および一般科目教員によるキャリア教

育の実践例について報告する。

#### 2. 豊田・徳山・明石高専キャリア教育の実践的な比較検討

徳山高専<sup>3)</sup>では、平成 15 年度に進路支援準備室 (現、キャリア支援室) が設置され、3 学科の教員及び学生課長で構成されるキャリアアドバイザー 6 名によって、学校全体でキャリア支援を行っている。

また、豊田高専<sup>4),5)</sup>においても、同様なキャリア支援室が平成 23 年度に設置され、充実したキャリア教育がなされている。

徳山高専では、学生相談室内の相談内容が進路に関することが多く、「教員の気づき」により自然とキャリア支援室の設置に至った様子である。

平成 18 年度に文部科学省の現代 GP に採択され、キャリア育成管理システム (きやり Pi) が導入された。きやり Pi を用いてキャリアプログラムの参加申込み、ポートフォリオの入力、求人・進路情報の検索等が可能であり、今尚、継続的に運用がなされている点が優れている。

一方、豊田高専では、平成 21 年に準備室を設置し、学内の教員による公募で WG を立ち上げ、「学

\*建築学科, \*\*一般科目英語科

習の動機つけ」、「進路支援」、「保護者との連携」、「キャリア講座」、「コミュニケーション能力の向上」に関する検討を行い、学内のボトムアップより平成22年に支援室が発足した。現在、2年生までの全学生にパーソナルフォルダ（通称、T-ファイル）が配布され、キャリア講座等で配布された資料をファイリングし、5年間保存するように指導されている。また、教員間で共有できるように学科事務室にT-ファイルが置かれている、学生・保護者との連携として、ホームページからキャリア講座の参加申込み、その支援活動状況がタイムリーに閲覧できるようになっている点が優れていると思われる。

両高専のキャリア教育で共通していることは以下の5点に集約できる。

- ① キャリア教育は学校全体で実施するものであり、将来的には教育の質の向上に繋がる。
- ② 低学年におけるキャリア教育は重要であり、支援室が企画、運営することが必要である。しかし、高学年には、進路担当教員がいるために、支援室は進路担当者のサポートにとどめる。
- ③ 2年生に対しキャリアプランの作成で進学と就職に区分してグループ討議、発表を行っている。
- ④ 4年生以上のキャリア講座の参加申込は、支援室で管理するが、指導は外部講師が実施する。
- ⑤ キャリア支援室の設置以前と以後での学生への効果は、早急に出るものではないが、社会に出てから効果が出てくると考えている。

表1に3高専のキャリアプログラムの比較を示す。

表1 3高専のキャリアプログラムの比較

キャリアプログラム	徳山	豊田	明石
キャリア支援室の紹介とガイダンス	○	○	×
在校生（1年生と5年生）との交流	○	○	○
特別講演（外部講師による講演）	○	○	○
国際・異文化理解講座	×	○	○
VPI職業興味検査の実施と分析	○	○	○
キャリアプランの作成	○	○	×
インターシップの事前・事後学習	○	○	○
自己分析、自己PRセミナー	○	×	○
エントリーシートの書き方、添削指導	○	○	○
送付状、電話の対応、名刺の交換	○	×	△
模擬面接、模擬集団討論	○	○	○
SR企画	×	×	○
社会人準備講演会	○	○	△
資格セミナー	×	×	○

注) ○は実施、△は試行中、×は実施せずを意味する。

表1より、3高専共通のプログラムも存在すれば、実施していないプログラムも存在することが判る。ただ、本校建築学科の就職希望者がクラス全体の30～35%程度であり、学校推薦を希望する関係で、あまり企業研究をせず就職活動に入る場合が多い。徳山、豊田高専とも2、3年生の前期のホームルームを使用し、キャリアプランを作成している。このキャリアプランの作成を今後、低学年のキャリア教育に取り入れたいと考えている。

### 3. 建築学科におけるキャリア教育の実践例

本校のキャリア教育は、人間力の形成（自己分析、自己回顧、コミュニケーション力の向上）、学習意欲への動機づけ、将来の仕事（夢）に対し高専生活をどう過ごすかを学生に理解させる取組みであり、単に進路先を決定する手段ではない。

#### 3・1 2年建築学科での建築士指定科目セミナー

従来、2年生に実施するキャリアセミナーは、在学中、卒業後に受験できる資格について説明するセミナーであった。建築学科は他の3学科と異なり、多くの国家資格、公的資格、民間資格を取得することが可能である。例えば、国家（公的）資格として、技術士、1級・2級建築士、1級・2級建築施工管理技士、建築設備士、木造建築士、建築工事監理技術者、甲種防火管理者などが挙げられ、民間資格として、VEリーダー、福祉住環境コーディネータ、インテリアプランナー、防災士などが挙げられる。詳細については、平成25年度 学生生活のてびき<sup>6)</sup>（57～61頁）を参照されたい。

平成20年11月の建築士法の改正により、高専卒業後の建築士受験資格が見直され、高専を卒業しただけでは受験できない制度となっている。受験資格に適合する建築学に関する指定科目<sup>7)</sup>を修得する必要があり、平成22年度より建築士指定科目制度に関するセミナーを実施している。1級建築士については、指定科目40単位以上、高専卒業後、実務経験4年間が必要となり、2級建築士については、指定科目40単位以上（実務経験0年）が必要となる。

現在では、5年以下の全ての学年にこの指定科目制度が導入され、平成26年3月卒業時より、本科の卒業証明書以外に指定科目単位証明書を発行することになる。

建築学科に入学する学生の大半が、将来、1級建築士を目指しており、建築士の国家資格が如何に難関であるかを、このセミナーで紹介している。

図1に平成19～24年度に実施された2級建築士学科・製図試験の受験者数と合格者数の推移<sup>7)</sup>を示している。平成20年度を契機に建築士の受験者数は大幅に減少しており、合格者数も8,901名から6,105名に減少しているが、合格率は20～23%である。

1級建築士に関して、平成24年度は29,846名が受験し、合格者が4,276名で合格率が14.3%と非常に低くなっている。

図1および1級建築士の受験結果に対し学生は非常に驚いた様子であった。この資格は、高専卒業後、建築の仕事をする上で最も必要な資格であることを学生が理解し高専での勉学に励んでももらいたいと願っている。

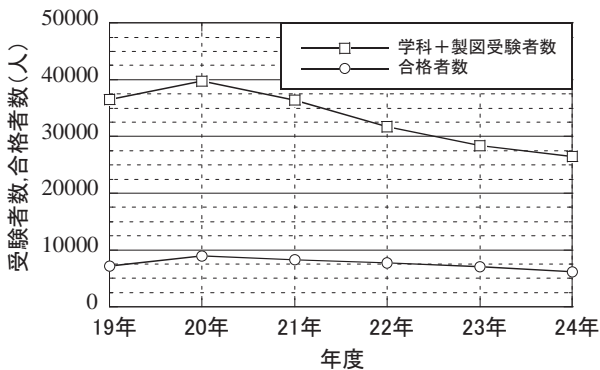


図1 2級建築士受験者に対する合格者の推移<sup>7)</sup>

平成22～25年度の建築士指定科目および資格セミナー終了後、以下のアンケートを実施したので紹介する。アンケートは以下の5項目である。回答数は男子学生が108名(65%)、女子学生が57名(35%)の計165名である。

【2A 建築士指定科目セミナー、意識調査アンケート】  
 質問1. 高専卒業後の進路はどのように考えていますか。  
 (大学編入学、専攻科、就職、迷っている)  
 質問2. 将来、どのような仕事に就きたいですか。  
 (設計事務所、住宅メーカー、ゼネコン、不動産、設備系、大工、住設機器メーカー、電鉄、公務員、その他)  
 質問3. 将来、取得したい資格は？  
 (建築士、建築施工管理技士、建築設備士、コンクリート技士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネータ、その他)  
 質問4. 指定科目制度が建築士の受験資格に導入されたことを知っていましたか。  
 (知っていた、知らなかった)  
 質問5. 本日のセミナーの感想を自由に書いて下さい。

図2～図4には、質問1～3に関するアンケート結

果の集計を示している。

図2より、2年生の前期の段階での進路調査であるために、進学、就職するかを迷っている学生が全体の41%であることが判る。4年生の前期までには、進路選択の方向性が決定しておれば十分である。

図3より、高専卒業後、或いは大学卒業後の就職先として、設計事務所と住宅メーカーが24～28%となっている。高専卒業後、設計事務所への就職希望は、最近では非常に難しくなっている。

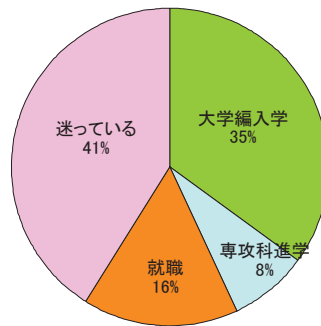


図2 高専卒業後の進路 (質問1)

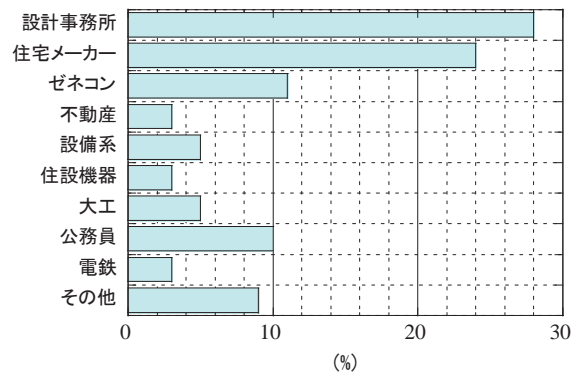


図3 将来の仕事 (質問2)

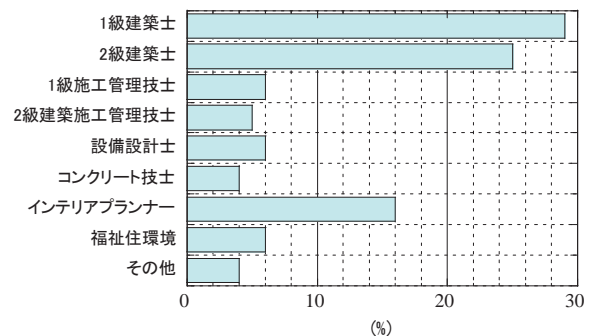


図4 将来、取得したい資格 (質問3)

図4より、高専卒業後、取得したい資格として、1級・2級建築士が25～29%であり、高専入学時、将来、建築士を目指したいという思いは変わっていないようである。ただ、インテリアプランナーの資格を取りたい学生が全体の16%であることが判る。

質問4の建築士指定科目制度が導入されていることを知っていましたかという質問に対して、「知っていた」という回答した学生は18名(11%)、「知らなかった」という回答した学生は145名(89%)であった。意外に知らないようであり、このセミナーの必要性を感じる。

質問5の「本日のセミナーに関する自由記述」に対しては、以下の通りである。( )は件数を示す。

- ・資格の難しさとその必要性がよく理解できた(48)
- ・建築士をぜひ取得したい(20)
- ・建築士などの資格を多く取れるように日頃の授業(建築設計演習等)に頑張りたい(12)
- ・卒業後、色々な資格が取れることが聞けて良かった(36)
- ・自分の進路について考えるセミナーであった(20)
- ・在学中に色々なセミナーを実施してほしい(1)
- ・2級建築士はもっと簡単になれると思っていた(1)
- ・進路相談を気軽にできる機会を設けてほしい(1)

### 3・2 3年建築学科でのキャリアプランの作成

2章において、豊田、徳山高専キャリア支援室の実態調査および表1において、3高専でのキャリア教育の実践的な比較検討を示した。本校はキャリア支援室が設置されていない高専の一つであるが、進路指導委員会の下で、4学科独自にキャリア教育、進路支援を実施している。表1から判るように、資格セミナーは豊田、徳山高専では実施されていないが、低学年でのキャリアプランの作成は実施されている。これは、企業研究、大学編入学先への進路研究の観点からすると非常に重要なキャリア教育と言える。

本節では、筆者の一人が今年、3年生の副担任を担当した関係もあり、試行的ではあるが、3年建築学科42名(男子28名、女子14名)を対象に実施したキャリアプランの作成について紹介する。

キャリアプランの作成にあたり、5、6月のホームルームにおいて、学年ごとのキャリア教育の内容と実施例を紹介し、図5、6に示すように過去5年間の進路状況(進学、就職先一覧)および企業研究事例について説明した。図5、6に示す緑の企業および大学は、建築学科の学生が就職している企業および進学している大学を示している。

進学(大学編入学、専攻科を対象)4チーム、就職4チームに分け、グループ討議、調査、まとめを実施させている。進学研究4チームと企業研究4チームを表2に示す。

進学先のキャリアプランの作成について、過去10年間、建築学科で合格している大学を選択し、大学における学科の特色、研究室の特色をホームページや進路報告書を用いて情報収集するように指導している。また、企業研究においては、建築学科の学生の多くは、学校推薦を希望し内々定を得ているために、殆ど企業研究していないのが現状である。これを克服するために、今回の企業研究に期待している。企業研究では、主に会社の特徴、社員数、資格の保有率、得意とする工事・設計分野、企業理念などを、ホームページを利用して調査するように指導している。表2より、男女別のグループ分けでは、進学先研究において国立大学を希望している女子学生は、14名中の10名と多く、企業研究では、ゼネコン、電力・ガス系については、男子学生の希望が多かった。これは、現場業務を伴う職種であるためではないかと推察している。

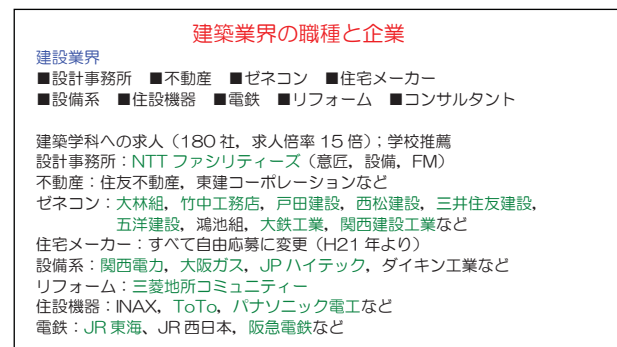


図5 建築業界の職種と企業名

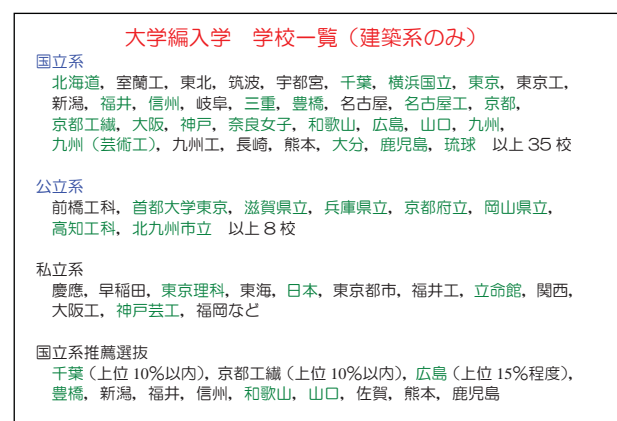


図6 全国大学編入学先一覧(建築系)



表2 キャリアプランの作成 (グループ分け)

	進学先研究	人数 (女子学生数)
A	京都・北海道・九州	(6)
B	大阪・神戸・京工織	6(2)
C	千葉・広島・奈良女子・専攻科	6(2)
D	和歌山・三重・山口・京都府立	4

	企業研究	人数 (女子学生数)
E	ゼネコン	6
F	電力・ガス (インフラ)	6
G	電鉄 (JR, 私鉄)・通信系	3(2)
D	大手設計事務所	6(3)

写真1には、平成25年10月16日に実施したキャリアプラン発表会の様子を示している。



写真1 キャリアプランの作成と発表

進学先研究グループでは、本校建築学科と同じ教育カリキュラムを持つ国公立大学(表2を参照)を対象に、各大学の教育カリキュラム・学科の特色、大学卒業後の進路、3年次編入学試験に関する情報、本校からの編入学実績を調査研究していた。また、企業研究では、表2に示した企業を対象に、各企業の特徴、全国・海外の本支店数、社員数、資格保有者数、本校からの採用実績等について調査研究がなされていた。8グループとも十分に調査、討論を行った上で発表しており、キャリアプランの作成を始めて実施したが、進路に関する学生の知識がより深まり、今後の進路選択に大いに役立ったと思われる。

#### 4. 一般科目でのキャリア教育の実践例

一般科目においては筆者のうち一名が、特定の学科に限定せず就職や進学をひかえた学生に対してキャリアサポートを行っている。一般科目教員は学科の枠を超えて指導ができることから、全学科共通

のアプローチが可能となる。本章ではこれまでの実践例と学生の抱える問題点などの整理を試みたい。

##### 4・1 キャリア支援セミナーの実施

本校に在籍する学生の多くが、就職活動の全体イメージと個々の活動内容において十分な理解を示しているとは言い難い。また大学3年次への進学率が70%ほどの本校においては、これまで就職支援が十分に行われてきたとも言い切れない部分も存在する。そのような現状を背景に、平成24年12月に全学科合同開催による4年生を対象にしたキャリア支援セミナーを実施した。本セミナーは就職支援を念頭においた初めての試みで、1) 就職活動全般について、2) 具体的な就職活動内容とその方法、の2点について講義を行った。本セミナーの目的は、まず学生に就職活動の大きなイメージを定着させることであり、その先の具体的活動内容を促進するための方法を提供することである。

##### 4・2 エントリーシート添削と学生の抱える問題点

上述のキャリア支援セミナー後、学生に対しての個別指導を行うこととなる。最初の取り組みはエントリーシートの添削指導である。エントリーシートは最初の下書きから数回の添削を経て最終版を確定させるので、相当な時間が必要な作業となる。学生の中には1日、2日で書けると安易に考えている者もいるが、まずその不理解に気づかせる必要がある。エントリーシートの中でも採用側が特に重視する『志望理由』と『自己PR』には、特に入念な準備と遂行が必要となる。

学生が書く『志望理由』は、「社会に広く貢献している貴社において自分の能力を発揮したい」や「新しい視座で技術開発を続ける貴社に魅力を感じた」など、概ね特徴のない内容に終始していることが多い。つまりその会社とその業界の研究がほぼなされていないことを示す文章になってしまっている。こういった『志望理由』はどの会社にも提出可能なものであり、裏を返せばどの会社に出しても通用しない内容と言える。『志望理由』は、ある程度の時間が必要となる企業研究を行った上で初めて書けるものである。学生たちにはその点を理解させ、就職活動は早めに取り組む必要があることを促すことが大切である。

『自己PR』に関しては、学生たちの記述の中に「協調性」、「忍耐力」、「リーダーシップ」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」といったキー

ワードが羅列されていることが多い。これらの言葉を並べて、自分にその能力が備わっているといくら力説したところで、採用側にその学生の本質が伝わることはない。どのような体験を通して、どのようなことを感じ、その結果自分がどのような成長を遂げたか、と具体例を入れながら論理的な記述をする必要がある。

エントリーシートは時間をかけて遂行することでよりその完成度を高めることが出来る。またエントリーシートに記載する内容は、そのまま面接にも転用することが可能なので、エントリーシート作成については時間と労力を惜しまない姿勢が必要である。

#### 4・3 個人面接の指導と学生の抱える問題点

実際の面接に見立てた練習、つまり『模擬面接』を通して明らかになる点は、早期に取り組む学生とそうでない学生との結果の違いである。熱心に取り組む学生は面接試験の数ヶ月前から模擬面接の依頼をし、計5回以上の模擬面接を実施する者も少なくない。早期に取り組んでいる学生はほぼ例外なく第1希望の企業から内々定が出ているが、面接試験の直前に初めて練習を試みる学生の中には内定が出ない学生も存在する。面接にはある程度の技術的要素が必要となるため、練習は欠かせないと考えられる。

面接の練習はもちろん大切であるが、練習の後に学生に与えるフィードバックに時間を取ることはより重要である。面接の練習をやりっぱなしで終えても学生にとってはほとんど教育的な効果がない。これまで模擬面接の様子をビデオに収めたり、模擬面接後のフィードバックの内容をそのまま録音し学生にそのデータを持ち帰らせたこともある。そのような活動を通して学生の自己学習が可能となる。

次に模擬面接から具体的に明らかになることとして、学生の言葉遣いとビジネスマナーの問題が挙げられる。普段使い慣れていない『敬語』に乱れが見られることと、普段よく使っている『学生言葉』が思わぬところで顔を出す点である。言葉遣いは面接の時だけ気をつけても使えないものであり、平素の生活の中で意識することが必要である。

また入室の仕方やお辞儀の仕方、名刺の受け取り方や着席の仕方など、さまざまなマナーも早期に理解し普段の生活で定着させることが大切である。

#### 5. まとめ

キャリア教育というのは、就職試験において内々定をものにするためだけのものではなく、将来にわたり社会人生活を送る上での必要な知識と技術を習得する機会と捉えることが重要である。

本論では、平成24年9月に豊田、徳山高専キャリア支援室を訪問し、キャリア教育を担当している教員との情報交換を行い、3高専キャリア教育の実践的な比較検討を行った。

また、建築学科および一般科目で実施している人間力の育成を目指したキャリア教育の実践例を紹介した。今後も先駆的にキャリア教育を実践されている豊田、徳山高専など他高専の事例を参考に、本校のキャリア教育の改善、充実に努めたいと思う。

#### 謝辞

本論文の一部は、豊田高専及び徳山高専キャリア支援室における視察報告である。この視察訪問に対し、ご協力及びご助言を頂きました豊田高専キャリア支援室長、兼重明宏先生および徳山高専キャリア支援室長、張間貴史先生に感謝申し上げます。

また、本論文において、豊田・徳山高専への視察旅費及び学生の就職支援に対し、平成24年度、明石高専教育研究支援経費「人間力育成を目指したキャリア教育の実践と他高専のキャリア支援室の視察」(代表者：中川肇、共同研究分担者：穂本浩美)の補助を受けました。ここに深く謝意を表します。

#### 参考文献

- 1) 中川肇：低学年時におけるキャリア支援教育の実践と課題の抽出-明石高専建築学科の取組み-、論文集「高専教育」第36号、国立高等専門学校機構、515-520頁、(2013.3)
- 2) 中川肇、穂本浩美：人間力育成を目指した学生のキャリア教育の実践、日本高専学会誌、第18巻3号、1-4頁(2013.7)
- 3) 徳山高専ホームページ、<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/support/>
- 4) 豊田高専ホームページ、<http://career.toyota-ct.ac.jp/groups/career/>
- 5) 兼重明宏ほか；豊田高専における学生支援の取組み、文部科学教育通信、No.288、24-27頁(2012)
- 6) 明石高専学生生活のてびき、51~61頁(2013)
- 7) 建築技術教育普及センターホームページ、<http://www.jaaic.or.jp/k-seidozenpan.htm> (2011.11)